

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
208	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
<b>題名 (原題/訳)</b>	
Impact of prenatal alcohol consumption on placenta-associated syndromes. 胎盤関連症候群への出生前飲酒の影響	
<b>執筆者</b>	
Salihu HM, Kornosky JL, Lynch O, Alio AP, August EM, Marty PJ.	
<b>掲載誌 (番号又は発行年月日)</b>	
Alcohol. 2011 Feb;45(1):73-9.	
<b>キーワード</b>	
アルコール、胎盤関連症候群、妊娠、乳児死亡率、出生前暴露	
<b>要 旨</b>	
<b>目的：</b> 胎盤と胎児の発達の生物学では、アルコールが胎児・新生児の発病や死亡のリスクを上げる要因になることが示唆されてきたが、研究結果は一定せず、メカニズムも十分分かっていなかった。従来の研究では胎盤関連症候群（PAS：胎盤剥離、前置胎盤、妊娠中毒症、低体重児、早産、死産の発生で定義される）のリスクについては検証されていない。そこで、1989-2005年のミズーリ州産科データファイルを用いて、出生前飲酒とPASリスクとの関連を検討した。	
<b>方法：</b> 多変量調整オッズ比（OR）と95%信頼区間（CI）算出のためロジスティック回帰分析を行った。	
<b>結果：</b> 非飲酒者に比べ、飲酒者は、喫煙者が多く、35歳以上、黒人、多産であった。飲酒者は非飲酒者に比べPASリスクが高かった（OR 1.26, 95%CI 1.22-1.31）。PASのリスクは出生前の飲酒量が多いほど大きくなる傾向にあった（傾向性 $P < 0.01$ ）。週に5杯以上飲酒はPASリスクを2倍以上にしたが、少量の飲酒（週1-2杯）ではPASリスクは小さかった（OR 1.09, 95%CI 1.05-1.14）。	
<b>結論：</b> 出生前飲酒によるPASリスク上昇のメカニズム解明は、妊娠時のトラブルの予防のための有効な介入方法を明らかにするだろう。飲酒女性のスクリーニングは、出生前飲酒の危険から胎児を守るために必要だろう。	